

アドレスバーに「https」のあるサイトが信頼できるとは限らない

2022年07月現在

自分の知りたいことをインターネットで検索する時、グーグル検索やヤフー検索でキーワードを入力して行います。

検索した結果の一覧から、自分の知りたいことが書かれていると思われるサイトを選び、クリックしてそのサイトへ移動します。

移動したあと、ブラウザのアドレスバーにはそのサイトのウェブページアドレスが表示されます。

そのウェブページアドレスが「http」でなく「https」で始まっていると信頼できるサイトと判断されていませんか。

「https」は、ウェブサイトへのアクセス時に、パソコンやスマートフォンとウェブサイトの間でやりとりするメッセージや通信内容をSSL/TLSという規格を使い暗号化して通信していますということを表しており、通信途中での盗聴や改変が起こらないことを保証しているだけです。

通信内容の暗号化を行うために、通信を行う相互が事前に暗号化キーを取り交わすことができればいいのですが、インターネット内では事前に暗号化キーを取り交わすことができません。このため暗号化キーを信頼できる機関が管理して提供することが必要です。そこで、「https」を使用したいウェブサイトはその機関に対して「認証」手続きを行いそのウェブサイトが使用する暗号化キーを管理してもらいます。

この「認証」の手続きには3種類あります。「認証」をされているからと言って、「信頼」できるウェブサイトであるとは限らない「認証」もあります。

「認証」を与えるウェブサイトの調査内容は3種類で次のように異なります。

(「ドメイン」という単語がありますが、これはウェブサイトにつけられた世界中で唯一の名前でインターネットの中の住所に当たります。この名前を付ける公式の機関があり、その機関が管理をしています。)

1. EV認証

ドメイン使用权の有無、ウェブサイトを経営する組織の存在性や組織の所在地、申し込みの権限など、厳格な第三者による調査をして「認証」をしています。

認証手続きの費用と時間が一番かかります。「信頼」できるウェブサイトです。

2. 企業実在認証

ドメイン使用权の有無、ウェブサイトを経営する組織の存在性を第三者による調査をして「認証」をしています。

EV認証に比べ、手続きの費用や時間はかかりません。「信頼」できるか確認の必要なウェブサイトです。

3. ドメイン認証

ドメイン使用权の有のみで「認証」されます。したがって運営する組織の実在性は保証していません。「信頼」できるか確認の必要なウェブサイトです。

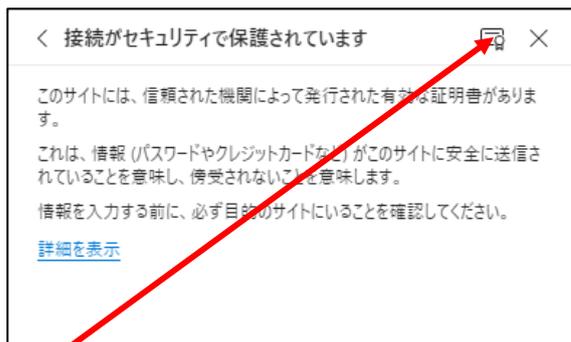
アクセスしたウェブサイトが上の3種類のどの「認証」を取っているかを知るには、ブラウザでそのウェブサイトにアクセスするしかありません。

エッジでは次の手順で確認します。

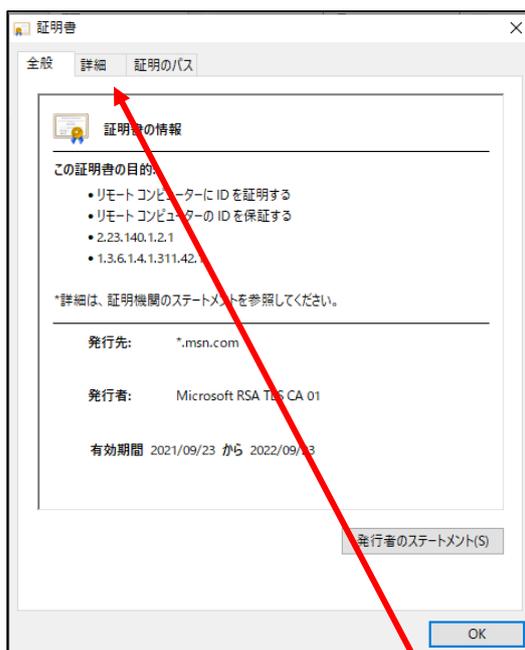
1. 対象のウェブサイトを開きます。
2. アドレスバーにある南京錠マークをクリックします。



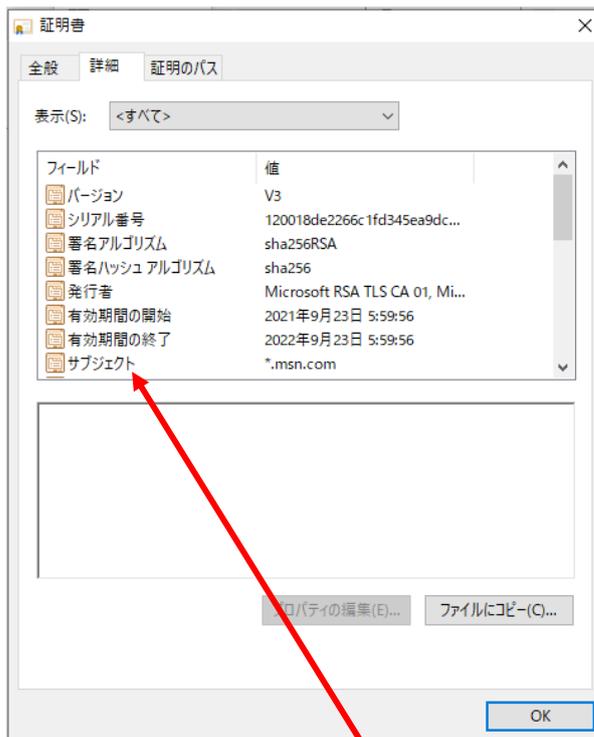
3. 「接続がセキュリティで保護されています」をクリックします。



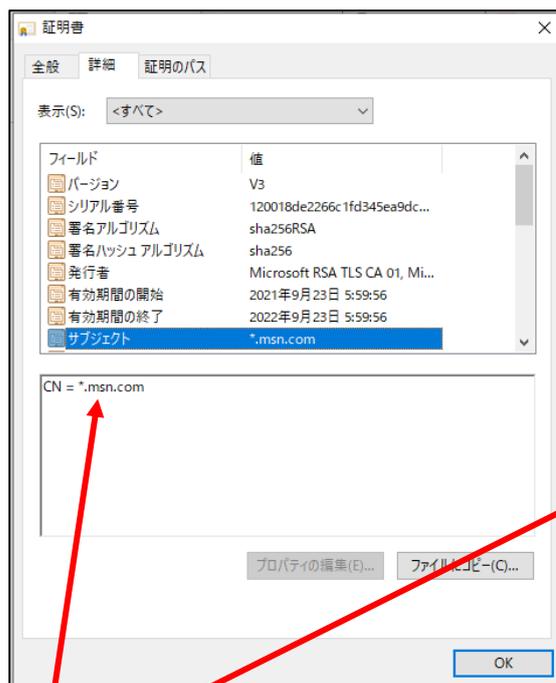
4. ここをクリックします。



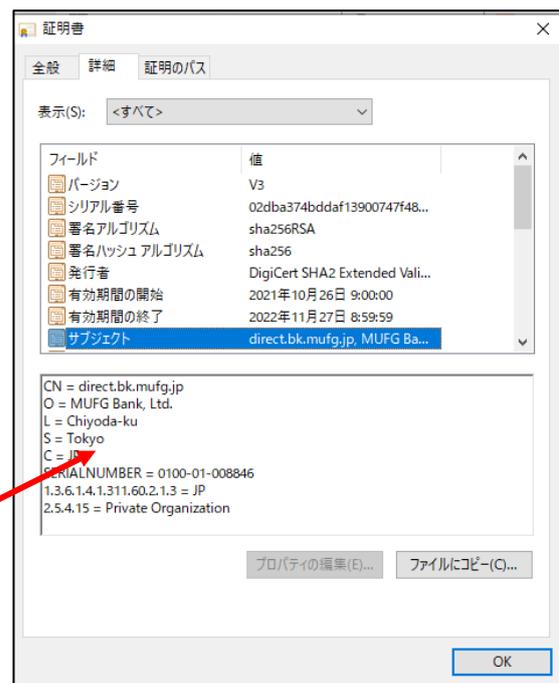
5. 「証明書」の「詳細」をクリックします。



6. 「サブジェクト」をクリックします。



マイクロソフト MSN の例



三菱UFJダイレクト の例

7. この内容を確認します。

- ① コモンネーム(CN)、運営組織名、運営組織の所在地(市区町村)、法人設立地などが記入されていれば EV 認証
- ② コモンネーム(CN)、運営組織名、運営組織の所在地が記入されていれば 企業実在証明
- ③ コモンネーム(CN)のみならば ドメイン証明

サイトの内容を確認の上アクセスを続ける必要があります。

ウェブサイトの安全な閲覧に参考になるアドレスバーのアイコン表示

エッジの場合

(参考 URL <https://support.microsoft.com/ja-jp/microsoft-edge/microsoft-edge-で-web-を安全に閲覧する--c7beb47a-de9e-4aec-839d-28224a13a5d2>)

1. 接続のセキュリティで保護された (有効な証明書)



2. 完全にセキュリティで保護されていない (有効な証明書なし)



3. 古いセキュリティ構成 (無効、期限切れ、自己署名)



4. 不審な Web サイトまたは危険な Web サイト (フィッシングやマルウェア)



クロームの場合

(参考 URL <https://support.google.com/chrome/answer/95617?hl=ja>)

クロームではアドレスバーに「http」や「https」は表示されません。

1.  保護 安全
2.  サイト情報を表示 情報、または保護されていない通信
3.  危険 保護されていない通信、または危険